

50th Anniversary

創立50周年記念誌

保土ヶ谷区民会議

保土ヶ谷区民会議創立 50 年 祝辞

横浜市長 山中 竹春



保土ヶ谷区民会議が創立 50 周年を迎えることを、お喜び申し上げます。1974 年の発足以来、住みよいまちづくりを目指し、活動を続けていただいていることに、心からの感謝と敬意を表します。

「自分たちの住むまちを、自分たちの手でよくしたい」と、地域のさまざまな課題解決に取り組んでくださる保土ヶ谷区民会議の皆様の強い思いと行動力は、横浜が世界に誇る「市民力」の象徴です。日々、地域のために力を尽くし、横浜の発展を支えてくださっている、現委員の皆様をはじめ、これまで携わってこられた全ての皆様に、重ねて御礼申し上げます。これからも、区民の皆様の「声」をしっかりとお聞きし、保土ヶ谷区そして横浜市の更なる発展に力を尽くしてまいりますので、変わらぬお力添えをお願いします。

貴会議の今後ますますの御発展と、委員の皆様、御関係の皆様の御健勝を心より祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

保土ヶ谷区長 神部 浩



保土ヶ谷区民会議の創立 50 周年、誠におめでとうございます。50 年の長きにわたり、貴会議が区民の皆様と行政とをつなぐ大切な役割を果たしてくださってきたこと、心より感謝申し上げます。

2016 年には、貴会議と保土ヶ谷区とで「保土ヶ谷区の『住み良いまちづくり活動』に関する協働契約」を締結し、「協働のパートナー」として区役所とともに課題解決に取り組んでいただいている。

地域の課題やニーズが多様化・複雑化していく中で、区民の皆様の視点で住みよいまちづくりを目指す貴会議は、区役所にとっても大変心強い存在です。

これまでの委員の皆様の、多岐にわたるご活動に深く敬意を表しますとともに、保土ヶ谷区への多大なご貢献に改めて感謝申し上げます。

貴会議が今後なお一層のご発展をとげられることを、心より祈念申し上げます。

保土ヶ谷区連合町内会長連絡会会长 金子 久夫



保土ヶ谷区民会議の委員の皆様、創立 50 周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

区民会議は、半世紀にわたり、「自分たちの住むまちを、自分たちの手でよくしたい」と区民の皆様が集まり、地域の発展と福祉向上にご尽力されております。区民会議と各地区連合自治会町内会が共催で開催している「地域のつどい」では、地域の交流を深め、地域の様々な課題や問題点を共有し、改善する場としてとても有効な機会となっています。

皆様のこの 50 年の活動を通じ、保土ヶ谷区にとって、なくてはならない存在となっています。これからも、区内の自治会町内会と区民会議が協力して、地域と行政をつなぎ、様々な課題に取り組んでいきたいと考えております。

今後も委員の皆様のご活躍を期待いたしますとともに、保土ヶ谷区民会議の益々の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

保土ヶ谷区民会議創立50周年を迎えるにあたり (40周年からの10年)

保土ヶ谷区民会議代表委員 小林 由美子

1974年（昭和49年）に誕生しました保土ヶ谷区民会議は、2024年（令和6年）10月で創立50周年を迎えました。平成27年度（第21期）より令和6年度（第25期）までの10年間は「未来へつなごう！人にやさしいまちづくり」をテーマに掲げ、「区民の視点」を原点として区民自身の手による区民のためのまちづくりを推進してまいりました。



半世紀の長きにわたり活動を継続できましたことは、区民の皆さん、自治会・町内会、地区連合町内会、区内諸団体・組織、学校、行政、他大勢の皆さんのお力添えがあってこそと、心より感謝申し上げます。

2015年（平成27年度）より2024年（令和6年）に至る10年間には、従来の活動に加え、2016年（平成28年）に締結された、互いを「協働のパートナー」と位置づける保土ヶ谷区民会議と横浜市（保土ヶ谷区役所）との「協働契約」に基づく協働事業、平成29年度には「環境・教育・交通災害・福祉」の4分科会から「環境・教育・交通・災害・福祉」とする5分科会への移行、「フードドライブ」「廃食油回収」への取り組み等、新たな展開もありました。もう忘れそうですが、コロナ禍による活動休止期間も。

この10年間の区民会議活動の軌跡を本記念誌に掲載しています。是非、お読みいただければ幸いです。

「組織は普通の人を非凡にする」という言葉があります。一人ではできないことを、まとまった人数で取り組む事に組織の意味がある、ましてや志を同じくする集まりであれば尚更、ということでしょうか。私たち区民会議は、目的意識を明確に持ち、区民と行政とのパイプ役としての役割を果たし、誰もが住みやすいまちを目指して堅実な歩を進めてまいります。行政にとっても区民の皆さんにとっても「必要な存在=区民会議」であり続けたいと願っています。

これからも、保土ヶ谷区民会議に対しましてのご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。

目の前に活動する何かがある幸せを大切にし、感謝の気持ちを忘れずに。

50年の誇りを持って、51年目がスタートします！

第25期保土ヶ谷区民会議 運営委員（22名）

代表 委員：小林由美子

副代表委員：平本 勉、川上吉夫、長山昌利、富田修一

委 員：尾崎宗造、広田正喜、田所幸雄、新島亮一、大久保節子、佐久間信義

遠藤茂子、西川佳男、犬飼知子、新庄 茂、藤本悦二、池田親政

金川博史、東倉俊夫、一政弘之、柿沼孝志、安田勝也

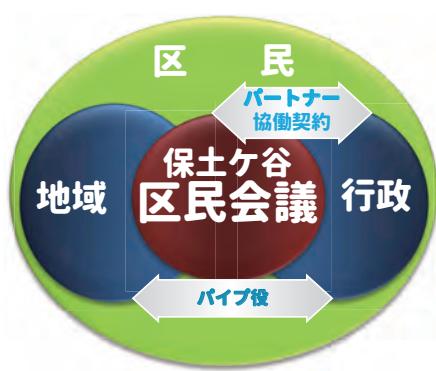


保土ヶ谷区民会議とは？

保土ヶ谷区民会議は、さまざまな立場や考え方を持つ人が参加して、区民の視点で自分たちの身近な生活に関わる諸問題を解決へ向けて相互に話し合い、住みよいまちづくりを進める目的としています。

1. 区民会議の概要

- ◇設立時期：昭和49年（1974年）に発足、令和6年で50年目を迎えます。
- ◇委員構成：地区連合町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、区スポーツ推進委員連絡協議会、区老人クラブ連合会など各種市民団体から推薦された委員と、公募により選ばれた委員で構成されています。全体の委員数は100名前後です。
- ◇委員の活動期間：任期は1期2年間で希望により任期の延長は可能です。
- ◇区民会議の特色：区民会議は、区民の視点で、行政と区民とのパイプ役として、地区連合町内会・各種団体・行政との連携を密にし、区民や地域の皆さんと共に、住みよいまちづくりを目指して活動しています。区民会議と保土ヶ谷区役所は、「協働のパートナー」と位置づける協働契約を締結し、様々な協働事業を展開しています。



2. 区民会議の活動の柱は広聴・提言・行動・発信です。

広聴

- 区民会議では、地域の生活に関わるさまざまな課題を取り上げ、問題の解決に向けて委員が相互に話し合いをしています。
- 毎年区内6ヶ所で地区連合町内会との共催により「地域のつどい」を開催し、地域の課題を区民相互で話し合います。その場にはオブザーバーとして行政からの出席もあります。

提言

- 区民会議で話し合われた内容は、提言・要望として行政に提出して区政に反映されています。
- 「地域のつどい」で出された意見をまとめ、行政への提言・要望事項は区へ直接提出して、区政に生かされています。提言・要望への行政からの回答は、全自治会・町内会、区民の皆さんに還元しています。

行動

- 区内で開催される各種委員会やイベントには積極的に参加しています。
- 環境、教育、交通、災害、福祉の5つの分科会でそれぞれ専門分野別に活動し、その成果の一部を毎年「区民のつどい」で発表しています。また、活動の詳細を活動報告書としてまとめています。
- 「フードドライブ」・「廃食油回収」にも取り組んでいます。

発信

- 役割は広報委員会が担っており、区民会議ニュース「やまびこ」や区民会議のホームページなどで区民会議の活動内容をお伝えしています。「地域のつどい」の提言・要望に対する行政からの回答は、ニュース「やまびこ」やホームページにも掲載しています。
- 広報などがや区版や地元メディアなどに情報を提供しています。
- 区民会議委員向けに「やまびこ通信」を原則毎月発行し、委員間の情報共有を図っています。
- ユーチューブ等での発信も計画中です。

保土ヶ谷区民会議は、これからも区民や地域が抱える課題に地域と共に積極的に取り組み、区政に反映できるよう、具体的な提言・要望を行政に提案してまいります。

地域のつどい・区民のつどい

「地域のつどい」 10 年のあゆみ(平成27年度～令和6年度)

保土ヶ谷区民会議の活動の重要な柱である広聴・提言の場として「地域のつどい」を、地区連合町内会との共催により、区内6会場で開催しました。毎回、各会場では、地域が抱える諸問題について、区民相互で活発な意見交換が行われました。

「地域のつどい」にはオブザーバーとして区長以下多数の行政関係者が出席され、地域の方々の生の声を聴いていただいています。

「地域のつどい」で出された意見・要望は、精査の後、行政に提言・要望すべき事柄としてまとめ、「提言・要望書」として提出します。それに対して行政からいただいた「回答書」は、区内全自治会・町内会にお配りするとともに、ホームページや区民会議ニュース「やまびこ」にも掲載しています。

しかし、コロナ禍のため、令和2年度と令和4年度は、書面によるアンケート形式での実施、令和3年度は、緊急事態宣言のため「地域のつどい」そのものを中止としました。

令和5年度・6年度は、コロナの猛威も去り、通常通り会場にての「地域のつどい」が開催できました。



「地域のつどい」会場の様子



第22期「提言・要望」提出の様子

「区民のつどい」 10 年のあゆみ(平成27年度～令和6年度)

「区民のつどい」は、区民会議の主要な主催事業です。

区民の皆さんを対象に年に1回開催して主に区民会議の活動内容を発信しています。



↙ 第21期 ↘

区民のつどい



↙ 第22期 ↘



↙ 第23期 ↘

令和3年度
コロナ禍により
中止

↙ 第24期 ↘



↙ 第25期 ↘



保土ヶ谷区民会議

50年のあゆみ

保土ヶ谷区民会議 歴代の代表委員（敬称略）

期	期間	委員数	メインテーマ
1	昭和 49 年～ 50 年	158	青少年の健全育成について
2	昭和 51 年～ 52 年	176	新しい 5 か年目標と予算
3	昭和 53 年～ 54 年	178	予算と街づくり
4	昭和 55 年～ 56 年	146	予算と市・区主要事業
5	昭和 57 年～ 58 年	167	住みよい街にするために予算と市民生活
6	昭和 59 年～ 61 年	172	保土ヶ谷区を住みよい街にするために
7	昭和 62 年～ 63 年	159	健康な街づくり私たちの保土ヶ谷をめざして
8	平成 元年～ 2 年	181	21世紀を豊かに生きるために
9	平成 3 年～ 4 年	173	住民みずからが考える街づくり
10	平成 5 年～ 6 年	166	みんなで考えよう 21 世紀の街づくり ～人と風土と生活と～
※	平成 6 年 9 月 10 日		20 周年記念事業実施 (記念誌発行・記念式典・記念イベント・他)
11	平成 7 年～ 8 年	135	ゆめはま 2010 プランの実施 ～誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざして～
12	平成 9 年～ 10 年	150	ゆめはま 2010 プランの実施～誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざして～はじめよう “ あったかほどがや ” 地域から
13	平成 11 年～ 12 年	131	いつまでも このほどがやに住みたい ～世代を超えた共生をめざして～
14	平成 13 年～ 14 年	96	いつまでも このほどがやに住みたい ～世代を超えた共生をめざして～
15	平成 15 年～ 16 年	117	すきです 保土ヶ谷 マイタウン ～いっしょに 魅力ある私たちのまち～
※	平成 16 年 11 月 27 日		30 周年記念事業実施 (記念誌発行・記念式典・記念イベント・他)
16	平成 17 年～ 18 年	97	すきです 保土ヶ谷 マイタウン ～手を取り合って明るい安心のまち～
17	平成 19 年～ 20 年	97	すきです 保土ヶ谷 マイタウン ～手を取り合ってつくろう 明るい 安心のまち～
18	平成 21 年～ 22 年	105	すきです 保土ヶ谷 マイタウン ～明るい笑顔と元気なあいさつ みんなでつくろう安心のまち～
19	平成 23 年～ 24 年	89	すきです 保土ヶ谷 マイタウン ～明るい笑顔と強いきずな みんなでつくろう安心のまち～
20	平成 25 年～ 26 年	91	すきです 保土ヶ谷 マイタウン ～明るい笑顔と元気を素に みんなでつくろう 住みつけたいまち～
※	平成 26 年 11 月 15 日		40 周年記念事業実施 (記念誌発行・記念式典・記念イベント・他)
21	平成 27 年～ 28 年	90	未来へつなごう！ 人にやさしいまちづくり ～すきです 保土ヶ谷 マイタウン～
22	平成 29 年～ 30 年	106	未来へつなごう！ 人にやさしいまちづくり ～すきです 保土ヶ谷 マイタウン～
23	令和 元年～ 2 年	106	未来へつなごう！ 人にやさしいまちづくり ～すきです 保土ヶ谷 マイタウン～
24	令和 3 年～ 4 年	111	未来へつなごう！ 人にやさしいまちづくり ～すきです 保土ヶ谷 マイタウン～
25	令和 5 年～ 6 年	118	未来へつなごう！ 人にやさしいまちづくり ～すきです 保土ヶ谷 マイタウン～
※	令和 6 年 11 月 9 日		50 周年記念事業実施 (記念誌発行・記念式典・記念イベント・他)

期	年度	代表委員
1～4	昭和 49 年～ 55 年	柳下 勇
4～8	昭和 56 年～平成 2 年	広瀬 美弥
9～11	平成 3 年～ 8 年	木村 広次
12～13	平成 9 年～ 12 年	鈴木 建一
14	平成 13 年～ 14 年	戸田 忠邦
15～16	平成 15 年～ 18 年	薩沢志萬子
17～19	平成 19 年～ 24 年	畠尻 明
20～	平成 25 年～	小林由美子

保土ヶ谷区歴代区長
区民会議発足時から現在（敬称略）

代	就任年月	氏名
20	昭和 48 年 4 月	二宮 徹
21	昭和 49 年 8 月	植村 慶富
22	昭和 53 年 7 月	有坂 昇
23	昭和 57 年 6 月	木下富士男
24	昭和 59 年 6 月	小宮山義雄
25	昭和 62 年 6 月	長久保美昌
26	平成 元年 5 月	生川 洋三
27	平成 3 年 6 月	川邊 滋
28	平成 5 年 5 月	小出 晃朗
29	平成 5 年 9 月	西川 律夫
30	平成 7 年 6 月	田中 修
31	平成 10 年 5 月	猪狩 正司
32	平成 13 年 4 月	大谷幸二郎
33	平成 15 年 4 月	寺澤 成介
34	平成 17 年 4 月	金子 宣治
35	平成 20 年 4 月	岡部 豊
36	平成 23 年 5 月	鈴木 和宏
37	平成 26 年 4 月	菅井 忠彦
38	令和 2 年 4 月	出口 洋一
39	令和 5 年 4 月	神部 浩

10年のあゆみ 第21期～第25期（平成27年～令和6年）

期	期間	「地域のつどい」テーマ・区への提言・要望件数・「区民会議交流会」※
21	平成 27 年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 41 件：平成 27 年 8 月 「区民会議交流会」今こそ考えよう！これからのまちづくり※
	平成 28 年	「地域のつどい」テーマ：安全・安心なまちづくりのために！ 「地域のつどい」からの区への提言・要望 27 件：平成 28 年 8 月 「区民会議交流会」いくつになってもチャレンジする 新しい社会をめざして！※
◎平成 28 年 12 月：保土ヶ谷区民会議と横浜市（保土ヶ谷区役所）が協働契約を締結！		
22	平成 29 年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 39 件：平成 29 年 8 月
	平成 30 年	「地域のつどい」テーマ：人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 36 件：平成 30 年 8 月
◎平成 29 年：保土ヶ谷区制 90 周年記念事業として「かるがも小径」の愛称制定 ◎平成 30 年 5 月：保土ヶ谷花フェスタ会場で「フードドライブ」活動着手 ◎平成 30 年 12 月：「区民のつどい」会場で「フードドライブ」に加えて 「廃食油回収」活動着手 / 以降継続して定期的に活動中		
23	令和元年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 29 件：令和元年 8 月
	令和 2 年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 25 件：令和 2 年 12 月 「地域のつどい」：新型コロナ感染症拡大のためアンケート形式
◎令和元年 6 月：横浜環境活動賞受賞 ◎令和 2 年 1 月：新型コロナウイルス感染症発生 ◎令和 2 年 6 月：「地域のつどい」／書面アンケートを実施		
24	令和 3 年	「地域のつどい」：新型コロナウイルス感染拡大のため中止
	令和 4 年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 17 件：令和 4 年 9 月
◎令和 3 年：コロナ禍のため、昨年に続き書面アンケートを予定していたが、 全国的に重症者が急増して緊急事態宣言発出により、中止とした ◎令和 4 年：「地域のつどい」／書面アンケートを実施		
25	令和 5 年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 15 件：令和 5 年 8 月
	令和 6 年	「地域のつどい」テーマ：未来へつなごう！人にやさしいまちづくり 「地域のつどい」からの区への提言・要望 10 件：令和 6 年 8 月
◎令和 5 年 5 月：新型コロナウイルス感染症第 5 類に移行 ◎保土ヶ谷区民会議 50 周年記念事業実施 (記念誌発行、記念式典、記念イベント、他)		

※区民会議交流会：1年に1度、横浜市内の区民会議が一同に会し、交流を図る催しであったが、平成 29 年以降は、保土ヶ谷区民会議以外の多くの区民会議が解散されたため休止している。



平成 28 年 12 月 19 日 協働契約締結



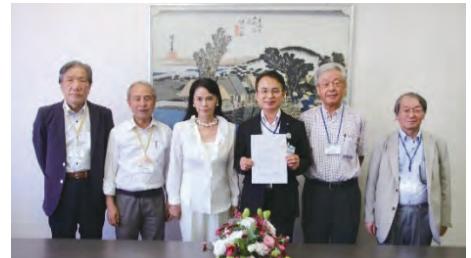
平成 29 年 「かるがも小径」 愛称制定



令和元年 6 月 13 日 横浜環境活動賞受賞



令和 4 年 4 月 22 日 フードドライブ・廃食油回収



令和 5 年 10 月 25 日 地域のつどい提言・要望書提出



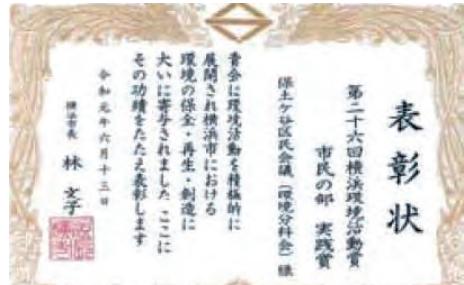
令和 5 年 11 月 11 日 区民のつどい

環境分科会

10年のあゆみ「未来へつなごう水・緑・資源」

1. 令和元年（2019年）6月13日「第26回横浜環境活動賞」を受賞

区民会議環境問題の永年の活動が認められ、「第26回横浜環境活動賞」を受賞しました。



2. 自然環境への取り組み



①神奈川水再生センター見学

平成27年（2015年）12月 同センターを見学しました。同センターは汚水と雨水を処理して

おり、窒素・りんを除去する高度処理施設も併設しています。各家庭からの汚水（トイレ・風呂・台所）および雨水が「きれいな水」となって川や海に放流されます。

②自然環境勉強会とホタル観察会

平成28年（2016年）6月・平成30年（2018年）6月・令和2年（2020年）6月・令和4年（2022年）6月、令和6年（2024年）6月、たちばなの丘公園で、自然環境勉強会と仏向および市沢の谷戸でホタルの観察会をおこないました。講師は藤川信子先生他でホタルの生態等の興味深いお話ををしていただきました。10日間ほどしか生きられないホタルが一生懸命舞っている姿に感動しました。市沢と仏向一帯の谷戸は帷子川の支流の源流部であり、この自然環境にはゲンジボタルの自生をはじめ、流れを取り巻く雑木林は多様な動植物が生息しています。毎回「市沢・仏向の谷戸に親しむ会」の方々にご協力をいただき、環境保全のための厳しい現状について学びました。



3. ゴミ問題への取り組み

①「食品ロス低減」について

平成29年（2017年）7月地域振興課資源化推進担当の畠係長を講師に食品ロス低減、令和元年（2019年）7月保土ヶ谷区地域振興課西村係長を招き、「ヨコハマ3R夢プラン」および「SDGs（持続可能な開発目標）」について「食品ロス」の具体例について学びました。

②工場見学について

平成30年（2018年）2月・令和5年（2023年）1月資源循環局鶴見工場・鶴見資源化センターの見学において、市民によるゴミの水切りや草木の乾燥をすることで、焼却炉の効率を上げ、発電量を増やすことができることを知りました。

4. エコ問題への取り組み

①再生可能エネルギー利用工場の見学

令和元年（2019年）12月と令和5年（2023年）12月に見学した（株）大川印刷はSDGs（持続可能な開発目標）17の目標の中から該当するものを会社方針に掲げ、先進的な運営をしています。屋上の太陽光発電パネルから生まれる電力と再生エネルギー利用の電力会社からの電力を合わせて工場稼働のエネルギー100%をまかなっています。印刷用のインクは、非石油系溶剤を使用した環境や食料品梱包材料にやさしい対策を施しています。

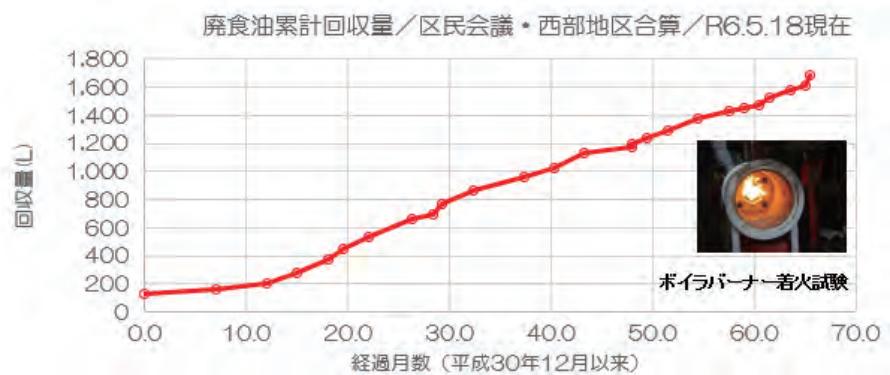
②「廃食油」再生精製工場見学

令和2年（2020年）11月、環境問題として「廃食油」を取り上げてからまだ日は浅いのですが「横浜市地球温暖化対策協議会」の紹介で、回収後の精製方法を学ぶために、泉区で事業を運営している「信

愛エナジー精製工場」を見学しました。精製後の再利用には農業用燃料やインクの原材料として利用されています。令和6年(2024年)2月に、再度見学に行きました。精製工場は稼働していませんが、朝比奈社長から廃食油回収の重要性につき講義を受けました。

③廃食油回収の実施

今まで固めて燃えるごみとして捨てられていた天ぷら油などの廃食油を精製して、ディーゼル発電機や農業用ハウスのボイラー燃料に活用する目的で、保土ヶ谷区民会議では平成30年(2018年)12月の区民のつどい会場で回収を始めてから、保土ヶ谷西部地区の協力もあって、5年半で約1,700リットルの回収を実現しました。植物油は成長の過程で空気中の二酸化炭素(CO₂)を吸収するので、燃料として利用される場合のCO₂排出量は帳消しとなり、地球温暖化の防止につながっております。最近では国際的に、航空機燃料としても注目されており、保土ヶ谷区役所前で定期的に回収しておりますので、今まで以上に区民の皆様方のご協力をいただきたく、よろしくお願ひ致します。



④地球温暖化問題への取り組み

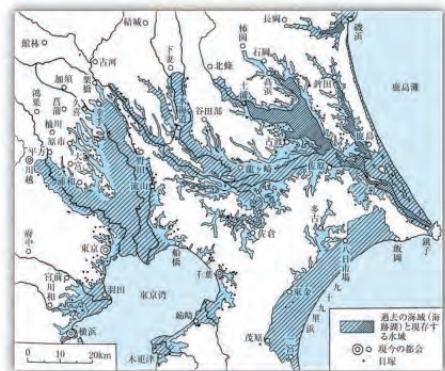
平成27年(2015年)12月地球温暖化対策の一環として横浜市が手がける、風力発電所ハマウイング風力発電事業の見学や、平成29年(2017年)6月区政推進課企画調整係の竹内係長を講師に招き、温暖化対策の具体例について勉強会を実施しました。・東日本大震災後、エネルギー・温暖化対策を取り巻く状況は大きく変化し、火力発電の増加によって、市内の温室効果ガスの排出量は増加しました。横浜でも平均気温がこの100年間で約1.8℃上昇し、温暖化対策は喫緊の課題とのことです。横浜市で排出されるCO₂の約四分の一は、一般家庭が使用する光熱によりますので、省エネ機器の採用、節電等を実施して地球温暖化の抑止に協力を求められました。

地球温暖化が進み、平均気温が2℃上昇すると、海水の膨張と陸上の氷河／氷床の氷が融解して海面が上昇し、6千年前の「縄文海進」のように標高の低い土地が水没する恐れがあります。

地球温暖化の原因と考えられる温室効果ガスのCO₂削減のために、現在、色々な対策がされています。CO₂排出量ゼロとするためには、石炭・LNGによる火力発電を、クリーンエネルギーの水素による燃料電池発電に切り替えることが必要です。水素の大量生産のために、日本の大手海運会社により、令和6年(2024年)以降、水素生産船の建造が計画されています。



横浜市風力発電所（ハマウイング）：
横浜市ホームページより



関東平野の旧海岸線：
葛飾区ホームページより

教育分科会

10年のあゆみ

第21期 平成27年(2015年)4月～29年(2017年)3月
テーマ「あいさつと食育とおして ひとづくり」

①「あいさつ運動」の更なる浸透

「あいさつポスター」作成、提示

「あいさつで広がる地域の輪」をテーマにした寸劇を「区民のつどい」のステージで発表



「区民のつどい」寸劇の様子

②食育

保土ヶ谷区社会福祉協議会主催「子ども食堂勉強会」に参加



上菅田特別支援学校訪問

③学校訪問

横浜市立上菅田特別支援学校を訪問

障がいがあろうとなかろうと、共に気持ち良く暮らせる社会を目指したい

トピックス

「あいさつポスター」を区内小・中学校や各施設（ケアプラザ・地区センター等）、区内掲示板に通年掲示。

第22期 平成29年(2017年)4月～31年(2019年)3月

テーマ「笑顔であいさつ 思いやの心を育もう！」

①「あいさつ運動」の継続

更なる浸透を図る

②「家族の絆」「親子のコミュニケーション」

いじめや災害から子どもの命を守るためにには、家族で、学校で、地域でのコミュニケーションが大切と考え、尊い未来の宝「子どもの命」を守るために学習、情報収集に取り組む

③学習会開催

区「子ども家庭支援課」係長より、行政の把握する現状や対策内容の講義を受けた

④学校訪問

横浜市立権太坂小学校を訪問

トピックス

保土ヶ谷区制90周年記念事業として「星川駅から区役所までの小道に愛称を！」公募に区と協働で取組み、愛称「かるがも小径」の誕生。

上記の学習結果をわかりやすくまとめ「区民のつどい」で発表した。「花フェスタ」「区民まつり」「区民のつどい」などで「フードドライブ」への取り組みを行った。



「かるがも小径」案内サイン前にて



「フードドライブ」にて

第23期 平成31年（2019年）4月～令和3年（2021年）3月 テーマ「子どもは未来のたから 地域ぐるみで子育てを！」

①「あいさつ運動」の推進

コロナ禍で新たな活動には取り組めなかつたが、「あいさつ運動」の浸透に努めた

②教育現場の実情を知る

- ・横浜市立富士見台小学校を訪問、「青少年の主張」を参観
- ・横浜市立岩崎中学校を訪問、授業参観、「ハマ弁」を試食
- ・「教育分科会アンケート」を実施（区内16校の小・中学校の保護者を対象）

③地域の子育ての実情を知る

「ほどがや☆元気村」を訪問、「大収穫祭」に参加



富士見台小学校 発表の様子

トピックス

コロナ自粛中の家庭内での子どもたちの様子や保護者の思いを知るために、区内16の小・中学校のPTA保護者を対象にアンケートを実施。

第24期 令和3年（2021年）4月～5年（2023年）3月 テーマ「子どもは未来のたから 地域ぐるみで子育てを！」

①「あいさつ運動」の推進

「あいさつポスター」改訂版を作成

②教育現場の実情を知る

前半に横浜市立宮田中学校、後半に横浜市立新井小学校を訪問し、授業を参観した

③地域の子育ての実情を知る

- ・保土ヶ谷警察署より少年の犯罪発生状況や被害・相談等の実情についての学習会開催
- ・「知っていると役に立つ地域の子育てQ&A」冊子を作成

トピックス

冊子「知っていると役に立つ地域の子育てQ&A」を核家族化等により子育てが難しくなっている現状を支援するために、教育分科会内で委員が分担して作成した。



改訂したポスター

第25期 令和5年（2023年）4月～7年（2025年）3月 テーマ「子どもは未来のたから 地域ぐるみで子育てを！」

①「あいさつ運動」の推進

第24期で改訂されたポスターを配布

②教育現場の実情を知る

横浜市立仏向小学校を訪問

③地域の子育て実情を知る

小・中学校等の求めるボランティア調査実施



トピックス

令和5年度「区民のつどい」で「地域に暮らすどのような世代でも子ども達のためにできことがあります」と呼びかけた。

令和6年度は、求められているボランティアを冊子にまとめ、子どもたちへの支援を図る。

交通分科会

10年のあゆみ

第21期 平成27年(2015年)4月～29年(2017年)3月

<今期まで「交通・災害分科会」として活動>

テーマ：「自転車・歩行者のルール・マナー遵守と啓発」

2015年6月1日施行「自転車向け道路交通法改定」に伴う「自転車のルール・マナー遵守」の変化の実情把握を目的とし、第20期よりテーマを継続致した自転車走行実態調査とアンケート調査実施

- ①朝の通勤・通学時間帯の自転車ルール・マナー実態調査と動画撮影。
- ②保土ヶ谷駅西口・東口周辺駐輪場アンケート調査及び自転車安全利用五則配布。

- ③イオン駐輪場でのアンケート調査及び自転車安全利用五則配布。



分科会メンバー

第22期 平成29年(2017年)4月～31年(2019年)3月

<今期より「交通分科会」として独立>

テーマ：「安全な道路交通をめざして」

サブテーマ：「自転車・歩行者の交通安全ルール・マナーの啓発」

今期は、区内でモデル地区を選定し、実施提案を目指した活動をしました。

モデル地区の選定・目的

「保土ヶ谷駅周辺の帷子町一丁目・二丁目商店街（税務署通り）」をモデル地区に選定しました。

保土ヶ谷駅への「通勤・通学時間帯の自転車流入量と駐輪場や他へ向かう流出量及び走行ルール・マナー実態」把握を目的とした第21期交通・災害分科会における2016年5月13日（金）午前7時半～8時半の調査の結果をもとにして決めました。

モデル地区は、区内の乗降利用客の多い保土ヶ谷駅への道でもあり、旧東海道保土ヶ谷宿の道として歩行者が楽しく・安全に通行できる道路環境と商店街の活性化を見据えた整備をする提案が目的です。

＜勉強会の実施＞（平成29年(2017年)12月13日分科会で実施）

講師：保土ヶ谷警察署交通課交通総務係長 川畠警部補

テーマ：「保土ヶ谷区内の交通事故の特性」について学習

山坂の多い住宅地地形から特徴的な原付バイク等の二輪車事故と前年比20%増の自転車事故について学びました。二輪車・自転車の交通安全指導が保土ヶ谷警察署の緊急の課題となっています。



2017年の勉強会の様子

＜勉強会の実施＞（平成30年(2018年)12月12日分科会で実施）



2018年の勉強会の様子

講師：新桜ヶ丘地区まちづくり協議会会長 中崎 孝氏

テーマ：新桜ヶ丘地区のまちづくりの課題と「ゾーン30」指定地域の現状

新桜ヶ丘二丁目地区は、「インターネット交通ナビ」などで抜け道と設定され、地区外からの自動車が住宅へ飛び込む事故や死亡事故等が発生し、そのような事故の日時・場所等を地図に落とし込み、警察や行政と協議会を立ち上げ「ゾーン30」を設定することができました。しかし、事故は減少せず、住民と行政との協議会で改善策の協議を続けています。

第23期 平成31年(2019年)4月～令和3年(2021年)3月

テー マ：安全な道路交通をめざして

サブテーマ：自転車・歩行者の交通安全 ルール・マナーの啓発

新型コロナウィルス感染拡大防止のために令和2年3月～6月、令和3年1月～3月の分科会が休止となり十分な成果を得られませんでした。

<勉強会・見学会の実施>

2020年2月に活動の参考となる場所として県警察本部を見学し、交通管制センターや広報センターを見るとともに、自転車にかかる事故・保険加入や自転車通行のルールなどについて交通警察を担当する警察官の話を聞きました。



県警本部見学会

<モデル地区の設定>

モデル地区の設定は第22期から取り組んでいる課題で、旧東海道の宿場まつりを行っている通称税務署通りを対象地区と決めていますが、関係行政の方々との話し合いなどに時間がかかっているうちに新型コロナウィルス感染拡大防止のためにその後の協議が難しくなっています。

第24期 令和3年(2021年)4月～5年(2023年)3月

テー マ：安全な道路交通をめざして

サブテーマ：自転車・歩行者の交通安全 ルール・マナーの啓発

(第23期より継続して活動しています)

<ルール・マナーの啓発用チラシの配布>

5月17日保土ヶ谷警察・保土ヶ谷交通五団体の皆さんとマナーアップ強化月間中の交通安全啓発チラシ・ルールブックの配布を行いました。サブテーマでもある「自転車・歩行者の交通安全 ルール・マナーの啓発」を如何に進めて行くかを協議し資料の収集に活動しています。



瀬戸ヶ谷小学校での交通安全教室



保土ヶ谷駅前での啓発チラシ配布

<研修>

1月14日(日)瀬戸ヶ谷小学校にて、保土ヶ谷地区連合自治会、保土ヶ谷区役所・保土ヶ谷警察署・保土ヶ谷交通安全協会(主催、共催)の実施する交通安全教室に参加しました。スタントマン・ウーマンによるスケアードストレート(恐怖を直視する)で自転車と車の事故を再現、恐怖により、交通安全に対する意識を高めて頂く目的があります。

第25期 令和5年(2023年)4月～7年(2025年)3月

テー マ：安全な道路交通をめざして

サブテーマ：自転車・歩行者の交通安全 ルール・マナーの啓発

(第23期より継続して活動しています)

「ラズベリー色のヘルメット」(第25期前半の区民のつどいで発表)紙芝居を基幹として「とにかくかぶろうヘルメット」の推進を議論だけではなく行動を組み立てる活動に繋げて行きます。「子どもは着用も、親が事故に遭遇し 命の危機を負ったとき子どもらは?」を届けます。

ヘルメット着用なしでの事故保険金差異などで「ヘルメット着用義務化を図る活動」を推進して行きます。

幼稚園、保育園、小学校、自治会町内会及び警察、市や区の広報誌との活動協議を実施します。

電動キックボードについてもどのように対応していくかを、十分に検討を重ねる必要があります。



交通安全の紙芝居を作製

災害分科会

10年のあゆみ

第21期 平成27年(2015年)4月～29年(2017年)3月

第21期までは、「交通・災害分科会」として活動を行っていました。

災害分野の活動では、区の全域で実施されている「20万区民の自助・共助による減災運動」の継続実施が決まり、「自助・共助実践運動推進委員会」を新たに発足させました。

主な活動はDIG(災害図上訓練)の出前講習会で、各地域にこのDIGを通して自助啓発をすべく平成28年度1年間をかけて、保土ヶ谷区内(6グループ)の各地区連合単位で、出前講習会を実施しました。



権太坂境木地区 DIG 実施の様子

第22期 平成29年(2017年)4月～31年(2019年)3月

第22期から災害分科会は「交通・災害分科会」から独立して活動をすることとなりました。

区全域で実施されている「20万区民の自助・共助による減災運動」の継続に伴い、災害分科会もこの運動を全面的に支援することとしました。

今期の活動

- ① DIG(災害図上訓練) HUG(避難所運営ゲーム)の出前講習会を継続して実施しました。
(DIG: 1自治会、HUG: 3地区で実施)
- ②横浜市総合防災訓練にブースを出展しました。
- ③初音が丘小学校キッズクラブ(90名)を対象に防災講習会を開催しました。



①西原自治会 DIG 講習会



②横浜市総合防災訓練にブース出展



③防災講習会の様子

トピックス

「家具転倒防止対策について」の冊子を発行

区との協働事業の一環として4年の歳月をかけて冊子の作成を行い発行する事が出来ました。



家具転倒防止対策について

第23期 平成31年(2019年)4月～令和3年(2021年)3月

テーマ 「防災・減災の原点は自助・共助の実践から」

サブテーマ 「保土ヶ谷の 我が家は家族の 防災拠点」

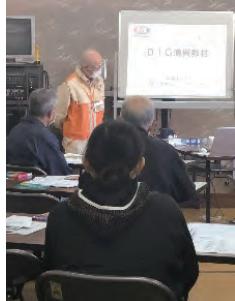
- ①災害分科会の委員を対象にHUGの講習会を開催しました。
- ②「20万区民の自助・共助による減災運動」推進大会で、保土ヶ谷公会堂のロビーに区民会議のパネルおよび災害分科会の活動パネルを展示しました。
- ③保土ヶ谷消防団 杉山団長による講話「保土ヶ谷消防団の活動・組織について」を開催しました。
- ④岩崎小地域防災拠点管理運営委員会対象 HUG出前講習会を開催しました。
※今井小学校のHUG出前講習会および初音が丘小学校キッズクラブの防災講習会は、コロナ禍によりやむを得ず中止としました。



④岩崎小学校 HUG 出前講習会

第24期 令和3年(2021年)4月～5年(2023年)3月 テーマ「防災・減災の原点は自助・共助の実践から」 サブテーマ「保土ヶ谷の 我が家は家族の 防災拠点」

- ①勉強会「危機管理室の仕事について」を実施しました。
講師：総務課危機管理・地域防災担当 中田係長
- ②DIG および HUG の出前講習会を実施しました。
(DIG : 2 自治会・1 地域防災拠点、HUG : 1 地域防災拠点で実施)



瀬戸ヶ谷小学校地域防災拠点管理運営委員会等

トピックス

川辺町防災協力会主催「自然災害シンポジウム」開催への協力

保土ヶ谷区は河川と傾斜地が多いため、豪雨に対して行政が発信する情報をどう理解して行動すべきか行政担当者の方々にお話をして頂きました。災害分科会はこのシンポジウムに計画段階から実行委員として参画し、開催に向けて協力をしました。



自然災害シンポジウムの
ポスター

第25期 令和5年(2023年)4月～7年(2025年)3月 テーマ「防災・減災の原点は自助・共助の実践から」 サブテーマ「保土ヶ谷の 我が家は家族の 防災拠点」

- ①勉強会「保土ヶ谷消防団の取り組み等について」を保土ヶ谷消防団 久保田団長を講師に開催しました。
- ②災害分科会委員・区民会議事務局・区の防災担当者を対象とした DIG の講習会を実施しました。
- ③防災講演会「東日本大震災の教訓と災害への備え」の開催時に保土ヶ谷公会堂のロビー防災ブースにおいてパネル展示等の協力をしました。
- ④法泉境木自治会の皆さんを対象に HUG の出前講習会を実施しました。
- ⑤帷子川分水路と資源循環局旭工場の見学会を当分科会が主催し、災害時の対応について勉強しました。



② DIG 講習会の様子



③防災講演会



④ HUG 出前講習会の様子



⑤帷子川分水路見学の様子

福祉分科会

10年のあゆみ

福祉分科会では「学び 考え 発信する 福祉分科会」をテーマに、様々な福祉の課題から時宜にあったテーマについて話し合い、学習会や施設の見学会を開催したり区民への発信を行ってまいりました。

福祉分科会の10年間：平成27年（2015年）4月～令和7年（2025年）3月まで

延べ在籍委員：158人、分科会開催：114回（うちコロナ禍のため6回中止）、学習会開催：21回、施設見学会：8回、映画会開催：2回、発表・発信：10回（令和6年（2024年）11月現在）

1. 「フードドライブ」の活動について

福祉分科会では他の分科会委員と共に、令和元年（2019年）より「フードドライブ」に多くの委員が携わって活動してまいりました。3ヶ月に一度の区役所前広場や「花フェスタ」「区民まつり」「区民のつどい」の会場などで「フードドライブ」を開催し受け付けてきました。この活動は、困っている方への「食支援」だけでなく、「食品ロス」を減らし誰ひとり取り残さない「SDGs」の活動へと繋がるものもあります。

令和5年（2023年）8月10日（木）区社会福祉協議会の山本篤氏を講師に「フードドライブ」についてお話を伺いました。「食支援」という活動自体は行政の事業ではなく、民間の善意の活動です。「食支援」で救われる区民が年間約200世帯いらっしゃるとのこと、横浜市の中では保土ヶ谷区の支援協力が一番多いそうです。



令和6年（2024年）3月22日（金）「フードドライブ」・「廃食油回収」の活動（区役所前広場）

2. 活動の記録（福祉を考える）

- (1) 第21期では視覚障がい者のホーム転落事故など痛ましい事故があり、私たちに何ができるか話し合い声掛けの大切さを学びました。また「上菅田特別支援学校」「中村特別支援学校」などを訪問し障害者への理解を深めることができました。



「障害者差別解消法」の学習会



「上菅田特別支援学校」訪問



「中村特別支援学校」訪問

第22期の「区民のつどい」から腹話術人形（しんちゃん）と工藤委員（おばちゃん）と一緒に分科会で取組んだ課題（障がい者支援、高齢者介護、認知症など）について発表し皆様にお伝えました。

第23期・第24期は新型コロナで活動に制限がありました、「区民のつどい」の発表も例年と違う形式として動画配信を行いました。しんちゃんを含め分科会委員全員で「ボッチャ」も体験学習しました。



しんちゃんと福祉分科会委員



しんちゃんと「ボッチャ」を体験

第25期は高齢者、障がい者の問題について学習会を行い、上大岡にある障がい者スポーツ施設「ラポール上大岡」を見学しました。今後とも「誰一人取り残さない」「つながり・支えあい」を大切にして笑顔を増す活動を継続してまいります。

(2) 映画会の開催（区障害者地域自立支援協議会・区社協と区民会議の共催）保土ヶ谷公会堂

- ・「みんなの学校」平成30年（2018年）3月8日（木）

障害のある子もない子も共に安心して暮らせるまちへ、すべての子どもに居場所がある学校。
- ・「どんぐりの家」令和6年（2024年）2月3日（土）

「聴覚障害」と「知的障害」を併せ持つ重複障害児を中心とした成長過程が描かれています。



映画会のポスター

3. 「学び 考え 発信する 福祉分科会」トレンドワード

福祉分科会10年の活動の間、話題性の高くなったワードを「福祉分科会トレンドワード」としてまとめてみました。このトレンドワードに優先順位を付けて学習し話し合い発信をしてまいりました。



ご支援ありがとうございました！



この度は、保土ヶ谷区民会議創立 50 周年記念事業実施に際しまして、大勢の皆さんに多大なるご協賛をいただきました。厚く御礼申し上げます。

ここに、ご協賛いただきました皆さまのご芳名を謹んで記載させていただきます。（敬称略）

【保土ヶ谷地区連合町内会／自治会・町内会】（順不同）

保土ヶ谷地区連合自治会、保土ヶ谷中地区連合自治会、保土ヶ谷東部地区連合自治会、保土ヶ谷西部連合自治会、権太坂境木地区連合自治会、岩間地区連合町内会、中央連合町内会、西谷連合町会、上新地区連合自治会、常盤台地区連合町内会、川島東部連合町内会、保土ヶ谷南部地区連合自治会、岩井町原連合町内会、新桜ヶ丘地区連合自治会／権太坂南自治会、今井町自治会、仏向町睦ヶ丘自治会、星ヶ丘自治会、仏向町内会、コンフォール仏向町自治会、西谷第一町会、西谷第二町会、西谷第三町会、西谷第四町会、西谷第五町会、西谷第六町会、西谷第七町会、西谷第八町会

【企業・商店・諸団体／一般】（順不同）

保土ヶ谷獣医師会、保土ヶ谷区商店街連合会、横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ、横浜市幼稚園協会保土ヶ谷支部、東京地方税理士会保土ヶ谷支部、スナックセピア、横浜市民アクト、学校法人初音ヶ丘幼稚園、保土ヶ谷中社会福祉協議会、なないろ畠（三村守）、ほどがや区の歌合唱団、夢21福祉会／萬屋典子、萬屋恵三子、間邊充代、犬飼徹雄、佐久間康子、青木和雄

【区民会議相談役／OB／委員】（順不同）

畠尻明、薩澤志萬子、渡邊廣子、中西義宣、東小蘭正富／松野忍、墨 厚、江間好司、鈴木克利、師尾公一／尾崎宗造、福田修一、高木丸美、平山光作、渡辺幸江、高崎能紀、飯田泰弘、大場昌一、塩路文、佐久間信義、久保田孝子、遠藤茂子、渡部佳代子、西川佳男、高 崇、中澤信子、寺坂悦郎、中村寛子、渡邊昌代、齊藤美穂子、市村隆、小林由美子、広田正喜、新庄茂、犬飼知子、島田学、石丸茂喜、山下りか、飯田洋子、大村知恵子、金川博史、宮司弘昭、池田親政、松原誠一、二瓶三喜雄、上川和雄、西野みゆき、高垣茂夫、新垣純、中本由夏、朝 一、長山昌利、東倉俊夫、田所幸雄、猪股衛、川畑幸夫、伊藤良仁、平本勉、新島亮一、柿沼孝志、中島康雅、西栄子、佐桑あづさ、高野正、一政弘之、山田美代子、宮田一夫、加藤祐一、岩見ちえみ、姥ヶ崎芳子、大久保節子、川上吉夫、関友子、藤本悦二、相良泉、安田勝也、小林那子、野一色由美子、工藤美代子、新倉芳江、保田順子、蛇子真由美、西原雅子、青柳定子、松原清、牧野月映、高橋和子、杉本ひろみ、池田皓芳、山田明子、小西博行

編集後記

記念誌編集では、区民会議 50 年のあゆみ（特に、直近 10 年）、各分科会活動の 10 年間を振り返り、今まで例のない令和 2 年～4 年のコロナ禍による“対面活動”制限・休止期間を含む活動の成果を行政・地域にいかに発信したかを問い合わせ、これらの活動から何を次の 10 年につなげるかを記事にしました。作成には記念誌部会員のみならず各分科会の皆さまのご支援を頂き完成しましたことを報告し、お礼の言葉とさせて頂きます。

記念誌部会長 富田修一

保土ヶ谷区民会議 50 周年記念事業実行委員会

委員長：小林由美子（第 25 期保土ヶ谷区民会議代表委員）
委 員：（環境）尾崎宗造、佐久間信義、遠藤茂子
（教育）広田正喜、西川佳男、新庄 茂、犬飼知子
（交通）田所幸雄、池田親政、金川博史、東倉俊夫
（災害）新島亮一、一政弘之、柿沼孝志
（福祉）大久保節子、藤本悦二、安田勝也
（副代表委員）平本 勉、川上吉夫、長山昌利、富田修一

保土ヶ谷区民会議 50 周年記念事業実行委員会 記念誌部会

部会長：富田修一
委 員：（環境）尾崎宗造、佐久間信義、遠藤茂子
（教育）広田正喜
（交通）田所幸雄、東倉俊夫
（災害）新島亮一
（福祉）大久保節子、安田勝也
（代表委員）小林由美子

奥付

発 行：保土ヶ谷区民会議
発行責任者：小林由美子
発 行 日：令和 6 年 11 月 9 日
印 刷 所：山王印刷株式会社

